

👋 手話サークル研究班 👋

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、交流しながら「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年3月現在、川崎4、横浜3、県域10、神聴連1、計18名で活動中。

～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆3/19 定例会報告

- ・ 全通研集会参加者報告、手話研修センター裁判経過報告等を行いました。
- ・ 8/27の集会準備に入り、サークル分科会は18年度の班活動方針に添い「手話に関わった人たちが気軽に参加できる」内容にする事を確認しました。
- ・ その他聴覚障害者老人ホームについて、地域でリーダーシップを取る方の影響力について等意見交換を行いました。

見学者の方が参加。すぐに共通話題で溶け込める事が出来るのが、手話サークルの力！

【次回定例会】

4月30(日) 13:00~15:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー
どなたでもお気軽にご参加下さい。

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20~40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が飛躍的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か？ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

～サークル研究班メンバーのささやき～

手話を始めようと思ったとき、近くで手話を学べる場所は手話サークルしかありませんでした。「なぜ・・・？」と思いながらもサークルに入り、ろう者と出会い、手話を教わって数年・・・ことばに出してうまく説明できないけれど「手話って」「サークルって」そういうものだよとわかり始めて、このサークル研究班に入りました。

同じような悩みがあったり、いくつかの解決策ができたり、いろいろな情報もあったり・・・と集まりは楽しみです
(Okia)